



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

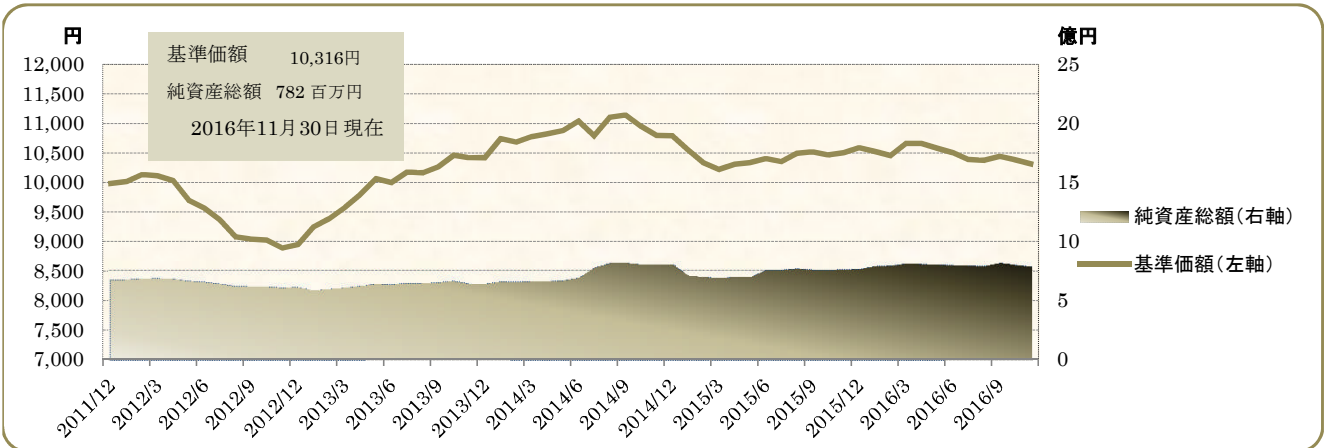
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年11月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

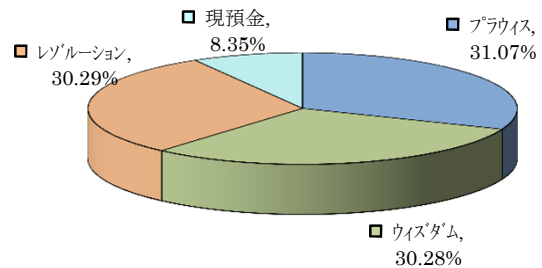
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%		-2.61%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2016年11月30日	
基準価額:	10,316円	対前月比 -69円
純資産総額:	782百万円	対前月比 -15.3百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.58%
基準価額騰落率	6ヶ月	-2.50%
設定来	ファンド	3.16%
基準価額騰落率	TOPIX	103.08%
	日経平均	117.91%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年11月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%		-0.83%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%		-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%		8.89%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

11月の株式相場は、日経平均で5.07%上昇の18,308.48円、TOPIXで5.49%上昇の1,469.43ptとなりました。米国大統領選挙でトランプ氏が勝利する見通しとなったことで、日本株は一時急落しました。しかし、トランプ氏の掲げる経済政策への期待や、為替市場で円安ドル高が進んだことなどが好感され、その後の日本株は急反発しました。

上旬は、下落の後、上昇しました。米大統領選の開票中は先行き不透明感から下落しましたが、確定後は米株高や米長期金利上昇、円安となったことで、下げ幅を上回って上昇しました。

中旬は、引き続き上昇しました。NYダウが連日で最高値を更新し、米景気が堅調との見方から上昇しました。米長期金利の上昇を受け、運用改善期待から保険株が上昇したほか、金融規制緩和への期待から銀行株が買われました。円安が進行し、企業業績改善期待から外需株なども上昇しました。

下旬は、更に上げ幅を拡大しました。米株が連日で最高値を更新し、トランプ次期米大統領の経済政策への期待やFRBによる利上げ観測から、ドルが主要通貨に対して全面高になりました。外需株などの業績上振れ期待から上昇し、TOPIXは28日まで12日続伸を記録しました。

需給面では、海外投資家が2ヵ月連続で買い越し主体となりました。一方で、国内の投資主体は、信託銀行が3ヵ月連続の売り越し、個人投資家は5ヵ月連続の売り越し、投資信託が2ヵ月連続の売り越し、事業法人が8ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、保険、銀行、鉄鋼、証券、不動産が上位となり、食料品、医薬品、情報通信、繊維製品、水産・農林が下位となりました。東証一部の売買代金は1日当たり2.62兆円と、活況の目安となる2兆円を3ヵ月ぶりに上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが2.5%の上昇、東証マザーズ指数は1.5%の下落となり、いずれもTOPIXをアンダーパフォームしました。

ファクター面では、米国大統領選挙の開票時にはリスク回避の動きが強まり高リスク銘柄や割安株がアンダーパフォームしましたが、その後はバリュアラーが継続しています。割安なグローバルシクリカルセクターの銘柄が円安に伴いアウトパフォームしただけではなく、幅広いセクターで割安株が物色されています。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

＜ファンド運用状況＞

11月の運用成績はJPYクラスで+1.76%となりました。米国大統領選挙後にリスクオンの相場展開となったことで、PERなどのバリュアラー指標が効いたことや、世界的な金利上昇により債券代替として買われていた高バリュエーションのディフェンシブ銘柄が大きくアンダーパフォームしたことがプラスの要因となりました。

セクター別の損益では、小売り、電気・ガス、輸送用機器、化学セクターでプラスとなり、機械、証券、医薬品セクターでマイナスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

12月の株式市場は揉み合いの相場展開を想定します。急ピッチな相場上昇により目先は利益確定売りに押される可能性が高いと思われます。しかし、今回の相場上昇に乗り遅れた投資家も多いと思われることから、押し目買い意欲も強く下値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

＜ファンド運用状況＞

11月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.53%でした。米国大統領選挙後、トランプラリー相場となる中、素材、不動産、銀行、各種金融セクター内の銘柄選択がプラスとなる一方、家庭用品、サービスセクター内の銘柄銘柄選択効果はマイナスとなりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで伊藤忠(8001)、DACHD(6534)、ショートポジションで東邦ガス(9533)、シスメックス(6869)がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

12月の株式市場は緩やかな上昇を予想します。米国大統領選挙後に急ピッチで上昇してきたことから短期的には調整もあると考えますが、円安・ドル高の持続力は強く企業業績の回復期待から底堅く推移すると予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

株式市場は、リバーサルとバリュアラー優位の色彩がさらに強まり、小型株は、7月同様に大きく売られました。マザーズ銘柄を含め、内需グロース、いわゆる小型株らしい銘柄が弱く、7月から続いているトレンドに大きな変化はありません。

このような傾向は、ローリスク銘柄や小型グロース株が、同じような扱いでロングポジションに偏って持たれていたためと考えます。

ポートフォリオは、既にシクリカルシフトを進め、ローリスク銘柄やディフェンシブのショートを維持していましたが、全体としてオーバーウェイトとしている内需グロース銘柄が割り負けることから、パフォーマンスの確保に至りませんでした。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

個別に大きな値動きも見られますが、小型株の売買は盛り上がりがないと思われるため、引き続きファンダメンタルに注目した局地的な銘柄選択を行います。特に、シクリカルなボトム圏にある銘柄について、来期以降の回復確度の高い銘柄に注目します。

小型株の急速な株価調整も水準的にほぼ半分は過ぎており、このペースで弱ければ、12月下旬に大きなチャンスになると考えています。

しばらくは、この環境下で大きなリスクを取らず、状況に応じて小型ロングの積上げを図ります。

業績モメンタムの変化に留意し、業績拡大可能な割安銘柄の組入れと、競争力など中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユーケイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご注意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。